

農政の動き 2016年2月5日～2月12日

◇森山農相 TPPの署名「歓迎したい」◇

森山裕農相は閣議後会見で、環太平洋連携協定（TPP）の署名について「一つの節目であり、歓迎したい」と述べた。同時に「引き続き、関係者に合意内容などを丁寧に説明をし、一層の理解を得られるように努めていく」とした。（2016年2月5日）

◇15年産ソバ収穫量 12%増の3万4700ト◇

農林水産省は、2015年産ソバの収穫量は前年産比3600ト（12%）増の3万4700トとなったと発表した。作付面積は、他作物への転換などで1700㍓（3%）減の5万8200㍓となったが、北海道での好天により10㍓当たり収量が15%増の60キ㍓となった。なお、収穫量の都道府県別割合は、北海道が46%で最も多く、長野県7%、茨城県6%、福井県6%と続く。（9日）

◇エルニーニョ現象 今夏には平常へ◇

気象庁は、発生中のエルニーニョ現象は「最盛期を過ぎて若干弱まり、夏には平常になる可能性が高い」と発表した。南米ペルー沖の監視海域の海面水温が高くなる現象で、日本では、春に発生すると、平均気温が東日本で平年並みか高く、日照時間は西日本太平洋側で少ない傾向がある。（10日）

◇大雪による農業被害 総額63億7千万円に◇

農林水産省は、1月17日以降の大雪に伴う農業被害の状況を更新し、被害総額は63億7千万円と発表した。内訳は、農業用ハウスなどの損壊が34都道府県で計5847件となり、被害額は23億3千万円。農作物の損傷は21都県で3962㍓となり、被害額は38億円などとなった。（10日）